



ほほえみ

平成30年
12月1日

116号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001



開会式の様子

大分大会

第52回全国保育士会研究大会

「子どもの命を育み、学ぶ意欲を 育てる保育の実現をめざして」

第52回全国保育士会研究大会が11月7、8の両日、大分市のichiko総合文化センター他で開催され、全国から1,502人が参加しました。

大会初日の基調報告では、全国保育士会会長の上村初美氏が、平成30年度の全国保育士会の重点的な取り組みとして、「実践研究の意義や目的、研究倫理についての理解促進」、「子どもの育ちの連続性を確保する小学校との連携強化」などについて報告されました。

引き続き、厚生労働省子ども家庭局保育課から行政説明が行われました。

保育に関する現状と主な取り組みとして、保育所保育指針の改定等を踏まえた「保育士養成課程」「保育所児童保育要録※2019年4月に小学校に入学する児童から適用」「保育所における感染症対策ガイドライン」の見直しについて報告があり、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」について本年度中をめぐりに改定に向けた検討を行う予定で、来年度以降に「保育所における食事の提供ガイドライン」が順次見直されるということでした。

記念講演では、バラエティ番組で心理評論家として人気を集めている植木理恵氏が登壇。

保育者だからこそ知っておいてほしい、生涯変わらない人間の気質(DNA)について紹介されました。

・内向性と外向性

内向的とは何かあったときに自分の中で答えをすぐに出したがる気質。例えば、誰かが病気になるたびに、

何をおいてもすぐに駆けつける人。外向的とは答えを外に見つけようとする気質。例えば、誰かが病気になるたびに、さまざまな外的状況を考えすぎて行動することはほしくない。

・情緒安定型と不安定型

例えば、どうしても明日までに仕上げなければならぬ仕事があつて、眠たくなってきたとき、安定型は眠りを取るが、不安定型は徹夜してでもやり遂げる。

安定型は白黒をはっきりさせるのでなく、グレーであいまい。不安定型は、白黒がはっきりしないと許せないが、大きなことを成し遂げやすい。

最後に植木氏は、子どもにとつて初めて出会う社会人である保育者が、自分はどう受け止めてくれるかは非常に大切で、その子のもつて生まれた良さを伸ばし、味方になってあげてほしいと締めくくりました。

次期開催地は島根県で、第6分科会「保育所・認定こども園等における保護者支援」では、本会から研究発表を行います。

(事務局)

保育士派遣事業レポート

▼第1回保育士復職応援セミナー

9月7日(金)、8日(土)に、潜在保育士等を対象とした「保育士復職応援セミナー」が開催され、2日間で合計43名の方が参加。本セミナーのワークショップへ10名の現役保育士・保育教諭等を派遣しました。グループに分かれて、保育の仕事内容とやりがい、子育てとの両立、短時間勤務、保育補助のニーズなど、自身の経験などを交えながら紹介し、参加者の質問に丁寧に答えたいいただきました。

▼園田学園女子大学

10月4日(木)、短期大学部幼児教育学科の2回生、22名を対象に「子育てと母子関係」について、さつきこども園の徳永加奈氏(元主任保育士・現幼児教育アドバイザー)が登壇しました。

徳永氏は、保護者との関わり方について、自身の保育現場での実体験を事例に取りあげ、「保育者としてどう接するか」について学生たちと対話形式で進行。

子どもとの立場に立つて、「子どもは何を思い、保育者に何を求めているのか」を意見交換しながら必要な保護者支援について学びました。

▼大阪人間科学大学

11月1日(木)、子ども保育学科の3回生を対象に「保育士の仕事のやりがい・魅力」について、彩都保育園の保育教諭、岩田匡弘氏と原田千裕氏が登壇しました。

当日は、24名の学生が出席。就業について不安を抱いている学生も多く、施設を選び方、保育現場の実態、仕事の魅力など、さまざまな話を聞き、学生からも多くの質問が出ました。

平成30年度 「キャリアアップ対象研修 夏の集中講座実施報告」



ながせ よしこ
長瀬美子氏

平成30年8月24日、30日、9月7日に、ホテルアウイーナ大阪で「保育の専門性を高める夏の集中講座」を開催しました。本講座は、保育士等キャリアアップ研修の対象で、143名の方々が幼児教育分野を修了されました。3日間の講師を務めいただいたのは、大阪大谷大学教育学部教育学科の長瀬美子教授。

初日は、「幼児保育の意義・重要性」と「幼児期の発達と保育」の再確認です。その中で、就学を見据えて幼児期に大切にしたいことの一つとして、集団の中の自分として行動できる力を強調されました。それは、友だちと力を合わせて、支えられ、励まされながら何

かをやり遂げる経験から得られるものです。保育者には、保育の中で身につけた力が、どのように就学につながるか見通しをもち、「生活を保障しながら、教育を行う場」だという認識をもつことが大切です。

2日目は、「幼児教育における指導計画」「記録及び評価」「幼児教育の環境」について、ワークを交えながら具体的に理解を深めていきました。

指導計画では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に向けて、実際の保育を、「健康な心と身体」「協同性、道徳性・規範意識の芽生え」「思考力の芽生え、関心・感覚」に分けて整理していきました。

特に、協同性の部分では、子ども同士の話し合い活動は保育者が解決者になるのではなく、子どもたちが話し合っ解決する「手順」を知らせ、みんなで話し合

うと解決できるという肯定的なイメージづくりがポイントです。数の多さが大切なのではなく、経験の質が問われます。

記録と評価では、目標と実際の子どもの姿を照らしあわせる際、実感や感覚だけでなく、記録(事実)に基づいて振り返ることが重要です。達成したこと、未達成のことを明確にし、それぞれの保育活動や環境の要因を理解し、園内で相談しながら計画に生かします。

物的環境は、意欲が生まれる環境をどれだけ整えるかが課題です。3歳までは安心して主体的に過ごせる環境、4、5歳児では子ども同士の関係が生まれ、自由な遊びからみんなの遊びへ、設定保育からさらに自由なあそびへと発展できる場を考えることが必要です。モノを置いておくだけではただのモノ。子どもが興味を示し、体験し、感じ、他

者と共有してはじめてモノは環境になるということでした。

人的環境である保育者は結果を与えるのではなく、子ども自身が興味をもち、自分の頭とからだで感じて獲得していくよう、子どもたちの理解者、共感者、モデルとして関わります。また、言語感覚を育てるには、話したいときに聞いてくれる人がいるかどうかが重要です。子どものことば以外の表現も大切に見守りながら、必要な言葉かけを意識します。

3日目は、「保護者との信頼関係づくり」と「小学校との円滑な接続」についてです。

保護者との信頼関係づくりでは、意識の「低さ」ではなく、「ズレ」に目を向けることが大切です。保護者は学校で勉強し実習を経て親になるわけではありませんが、子育てへの不安から、良くも悪くもさまざまな情報に影響されます。

また、園が重視するものと、家庭が重視するものは必ずしも一致しません。大人にとつての便利さが、子どもにとつての豊かさとは限らないという点を家庭に知らせることが大切です。子育てのとまどい、就業との両立、生活状況の厳しさなど、24時間で子どもの生活をとらえ、できることから家庭・保護者と一緒に進めていきます。

小学校との円滑な接続では、はじめに学校教育とのシステムの違いについて説明されました。学校教育は「到達目標」を設定し、達成度・到達度を中心に学習が展開される教育で、幼児教育とは性質が異なります。また、養成校のカリキュラムの構成上、小学校教員が必ずしも幼児教育の知識をもつわけではありません。大前提

として、両者の立場や視点の違いを理解する姿勢が大切です。

「円滑な接続」は幼児教育の充実があつてこそです。小学校の生活科で学ぶことを、子どもたちは園で日常的に獲得してきています。1年生はゼロからのスタートではないことを、園での活動の前身や、どんなプロセスを経てみんなで取り組んできたのか、どんな育ちを大切にしてきたのかなどを説明しながら、理解してもらうことです。

両者が、子どもの視点から見た円滑な接続を意識し、連携を深めてもらいたいということでした。

(事務局)

「冬の集中講座」告知

来年2月に保育士等キャリアアップ対象研修「食育・アレルギー対応分野」を開講いたします。

【日程】 平成31年2月8日(金)、12日(火)、19日(火)

【会場】 T K P 心齋橋駅前カンファレンスセンター

【講師】 小川雄二氏(名古屋短期大学保育科教授)

【定員】 150名

なお、研修のご案内は、**12月3日(月)**に「にじいろつみきネット」ホームページに公開予定です。たくさんのお申し込みをお待ちしております。

乳児期から3歳の 食事と発達

名古屋短期大学 小川 雄二
保育科教授

Profile

名古屋短期大学保育科教授
子どもが楽しく食べることの大切さを伝えることをライフワークにして、「食育」「離乳」「咀嚼」「嗜好の発達」「アレルギー」をテーマとした研修、講演多数。

(連絡先)

名古屋短期大学 0562-97-1306

✉ogawa-y@nagoyacollege.ac.jp

(3)移行期(19カ月〜3歳)の摂食機能の発達と食

保育の現場では、離乳期から3歳までの摂食機能(咀嚼)の発達をどのように支援するかが、大きな課題になっています。特に、離乳完了後の1歳半頃から咀嚼が完成する3歳頃までの「移行期」については、明確なガイドラインがないのが実情です。

了してから咀嚼が完成するまでの時期(時期の目安としては19カ月から3歳)の時期、すなわち「移行期」の発達と食についてまとめます。

●**離乳の完了から咀嚼の完成へ**

第1乳臼歯が生えて、形のある食物をつぶすことができるようになる12から18カ月頃に離乳が完了します。離乳の完了とは「形のある食物をかみつぶすことができるようになる」栄養素の大部分が母乳または育児用ミルク以外の食物からとれるようになった状態であり、咀嚼能力の完成ではありません。咀嚼のうえで大きな働きをする第2乳臼歯が生えていないからです。

第2乳臼歯が生えてくる時期にも大きな個人差があり、1歳9カ月から3歳頃です。そして、第2乳臼歯が生えそろった頃には咀嚼能力の完成をめざします。咀嚼機能の発達のうちで最も重要な時期は口腔や手指の発達がある程度進んだ、移行期(19カ月〜3歳・幼児期前期)です。

●移行期前半の発達と働きかけ

移行期を、ここでは、第2乳臼歯の生える前の「移行期前半」(1歳9カ月から2歳3カ月頃まで)と、生えた後の「移行期後半」(2歳4カ月から3歳頃まで)の2つに区分します。(第2乳臼歯の生える時期は個人差も大きいので、あくまでも参考年齢です)

移行期前半は、食べ物の好みがあはつきりしてきて、食べさせようとすると嫌がったり、食卓にじっと座つていられたかったりすることも多い時期です。手づかみ食べを盛んに行います。第1乳臼歯の萌出から1カ月ほど遅れて、先がとがった乳犬歯が生えてくると、食べ物が噛み切りやすくな

ります。しかし、まだ第2乳臼歯が生えていないため、奥歯ですりつぶすという食べ方はできません。生の葉もの野菜や豚肉、牛肉などの大きな食べ物はまだ食べづらい時期です。

この時期の調理形態は、「前歯で噛み切れ、奥歯でつぶすことができる硬さ」です。大人がおいしそうに楽しそうに食べるようすを見せ、落ち着いた雰囲気づくりをします。食事のあいさつを繰り返して伝えます。噛む力は未熟であり、食材をすりつぶすことはまだできないため、子どもが食べにくそうにしていたら、小さく切ったり、やわらかくなるまで加熱するなど、よく調節していきます。実際には、移行食を提供している園は少ないと考えられ、保育士が保育室でスプーンなどを使って、ひとりひとりの子どもの摂食機能にあわせた適切な形態にしていきます。

●移行期前半の発達と働きかけ

移行期後半には、食べものの好みがあはつきり、偏

食、小食、遊び食べなども増えてきます。一方、スプーンやフォークを上手に扱うことができるようになります。2対だった臼歯(左右の第1乳臼歯)が、倍の4対(左右の第1乳臼歯と第2乳臼歯)になって、食べものをすりつぶす力がかなりついてきます。幼児と同じ程度の硬さ、大きさの食べ物もかなり食べられるようになります。この時期の調理形態は、「子どもの奥歯ですりつぶすことができる程度の硬さ」が適切です。

第2乳臼歯が生えて、上下10本ずつ合計20本の乳歯が生えそろい、噛み合わせも完成します。これによって、子どもはようやく食べもののすりつぶしや噛み切りを十分に行うことができるようになります。第2乳臼歯が完成し、3歳くらいになると乳歯の根も完成し、歯茎の骨にしっかりと植わり、ある程度硬いものでも食べられるようになります。

この時期には、媒体等を用いて食事時間を知らせたりして、食べものに興味をもてるようにし、自分で食べるようになってきたら、褒めたり認めたりすることを忘れず、意欲を育てる言葉かけをしていきます。乳歯が生えそろったことにより、生の葉もの野菜や豚肉、牛肉などの硬いものも、少しずつ食べられるようになりますので、さまざまな調理法のものを取り混ぜて、多様な食の体験ができるようにしていきます。

こうして3歳頃に咀嚼機能が完成し幼児食の時期になります。この時期の臼歯は、まだ大人の半分の本数(子どもは8本、大人は16本)です。永久歯の第1大臼歯(6歳臼歯)が次に生えるまでの間、幼児期後半(3〜5歳)は、すりつぶすための臼歯の本数は引き続き8本です。

●3歳頃に咀嚼が完成

2歳後半くらいになると

このように、3歳で咀嚼機能の完成といっても、それは幼児としての咀嚼機能の完成であり、それは大人と全く同じ硬さのものを咀嚼できるということではありません。幼児食の時期も、引き続き調理法には十分配慮していく必要があります。

保育の玉手箱

担当/堺ブロック

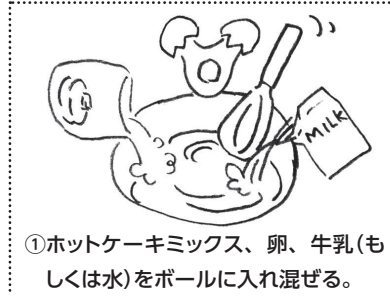
簡単でおいしい!! パッとクッキング

大人気の簡単メニューです。
園で、ご家庭で、ぜひお試しください!!

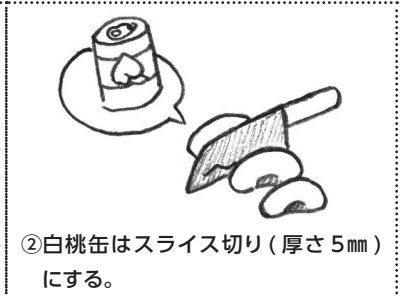
◆ 炊飯器 DE ピーチタタン

●材料

- ホットケーキミックス…… 200g
- 卵…… 1個
- 牛乳(もしくは水)……130cc
- 白桃缶…… 大1缶(固形量 250g)
- 砂糖……20g
- バター……15g



①ホットケーキミックス、卵、牛乳(もしくは水)をボールに入れ混ぜる。



②白桃缶はスライス切り(厚さ5mm)にする。



③炊飯器にスライスした白桃缶を並べ、混ぜ合わせた①を入れ炊飯を開始。



④炊き上がったら、ひっくり返してお皿へ移し、切り分けて完成!

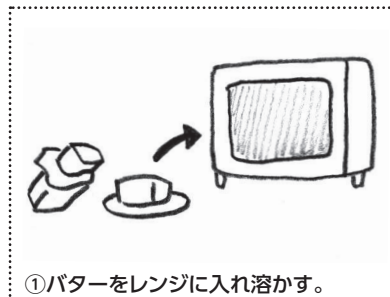
でき上がりは、こんな感じです!!

◆ 麩のラスク

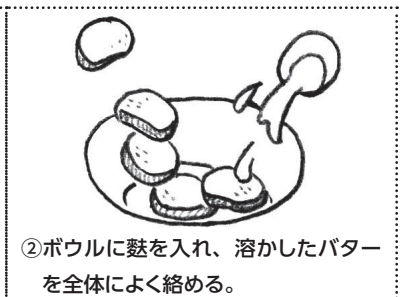
<4人分>

●材料

- 切り麩…… 20g
- バター…… 30g
- 砂糖…… 30g



①バターをレンジに入れ溶かす。



②ボウルに麩を入れ、溶かしたバターを全体によく絡める。



③暖めたフライパン(もしくはホットプレート)に②を入れ、分量の半分の砂糖を入れる。



④入れた砂糖が絡まるように煎り、サクサクしてきたら加熱終了。



⑤お皿に移し残りの砂糖を絡めて完成!
☆でき上がりに絡めるものを変えているアレンジしてみてください。(例:きな粉、黒糖、抹茶など)

でき上がりは、こんな感じです!!

※食物アレルギーのある方は、代替・除去等で工夫してください。

編集後記

今年も残すところひと月となりました。この一年を振り返りますと、たいへんな年だったと思います。

6月の大阪北部地震、7、8月は記録的な猛暑に見舞われ、9月には台風21号が近畿地方を直撃しました。ライフラインが止まったり、建物に被害が生じたり、休園せざるを得ない状況の園もありました。心からお見舞い申し上げます。

地震が発生した時刻には園児も登園しており、危機管理を改めて見直す機会となりました。子どもたちも大きな地震や台風の怖さを体験し、避難訓練に真剣に取り組む姿がみられました。防災について考えさせられた一年でした。来年は穏やかな年となりますことを心から願います。

よいお年を...

